

# メスプ NEWS

## 子宮頸がんは検診を重視して！

～ワクチン接種では防ぎきれない～

正しく理解していますか？

### 子宮頸がんワクチン

#### ●見逃せない副反応

今年4月から小学6年～高校生の女子を対象に定期接種となりましたが、その副反応が今問題になっています。6/14には厚労省は接種を積極的に呼び掛けるのを一時中止するよう、全国の自治体に勧告しました。2009年12月～2012年12月末まで、厚労省の把握している副反応は1926件。この発生率は小児定期接種ワキンの7倍、インフルエンザワキンの40倍。副反応の発生率はダントツです。

#### ●予防率“約60%”

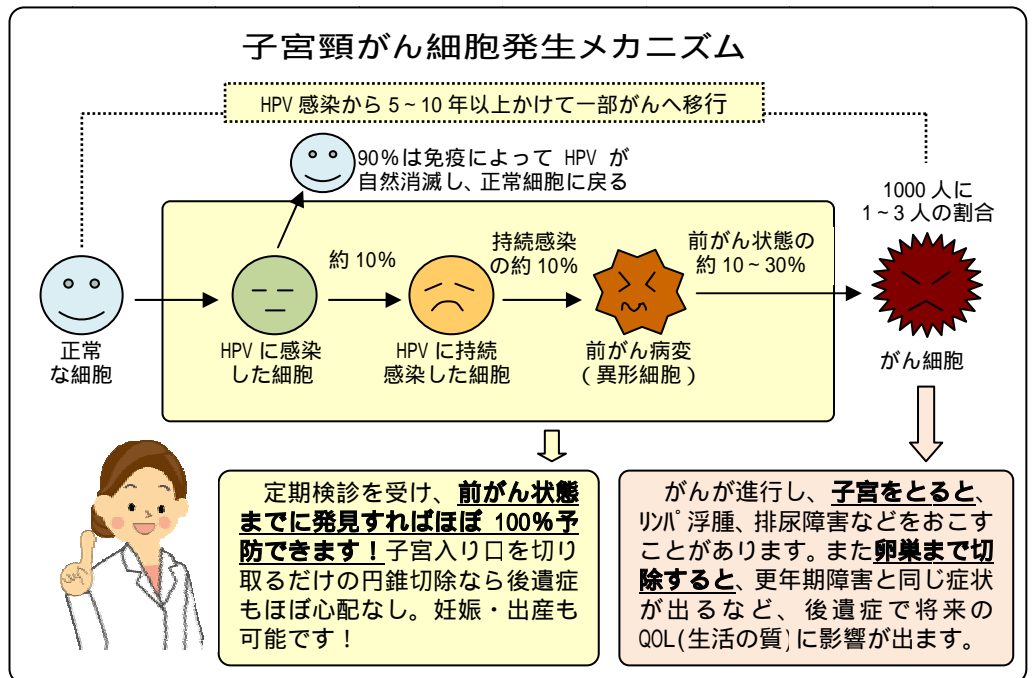
HPVには150以上の型がありますが、感染しても90%は一過性で免疫により自然に消滅します。そのうち約13種の高リスク型HPVが持続感染した時、子宮頸がんになる可能性がでてきます。

ワクチンで予防できるのは、発見される型の60%を占める16型と18型の2種類のみ。残り40%は他の型やその他の原因です。つまり**予防率は子宮頸がん全体の約60%**。またワクチンは治療薬ではないため、感染した後では効果はありません。そしてその持続性は現在不確定です。

つまり**“検診の必要性は変わらない”**ということです。これは産婦人科ドクターも同じ意見です。**“予防接種をすれば大丈夫、子宮頸がんにならない”**という認識は**“間違え”**です！

### 子宮頸がんの原因と発生メカニズム

原因のほとんどがHPV(ヒトパピローマウイルス)感染で子宮頸がん患者の90%以上から検出されています。HPV自体は皮膚や粘膜にいるありふれたウイルスで、性交渉の経験がある女性の80%が一生涯に一度は感染するといわれ、**感染自体はごく自然なこと**です。



### ♡子宮頸がん“20歳過ぎれば検診”♡

#### Stop! “発症の低年齢化”

性交渉の低年齢化に伴い、子宮頸がん発症年齢は20代から急増、ピークは30代。つまり妊娠・出産時期になります。そして死亡率は高齢になるほど上昇します。**自覚症状のないまま進行するので、気付いた時には子宮を失うことになったり、命を落とすことになり**ます。思春期を迎える子供の時期から、**子宮頸がんについての正しい知識を持つことが重要**です。

#### Change! “低い検診受診率”

受診率は先進国のアメリカ、英国、カナダでは80%近いなか、日本はわずか24%。これは先進国では最も低い受診率です。**検診が“女性の習慣”になる社会**にしていくことが大切です。

<メスプの検査> “若い人・恥ずかしい人・忙しい人”も自己採取できます！

#### 子宮頸がん検査(細胞診)

前がん病変、がん細胞、トリコモナス症、カンジタ症などを発見します。

#### HPV検査

高リスクHPV13種(16, 18, 31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59, 68型)の感染を調べます。

メスプでは「子宮頸がん(細胞診)」と「HPV」の両方の検査が可能です。次号は注目されつつある**“HPV検査”**についてです。

# MSP おこしやす京都

## ～ 京都「五山の送り火」～

晩夏の8月16日午後8時、京都の街は少し明かりが落とされ、東山の「大文字(右)」に火が灯ります。続いて「妙法」「船」「大文字(左)」「鳥居」と順に灯火され、約1時間にわたり京都の夜空を彩ります。「送り火」の起源は定かではなく其々に異なり、古いものは平安時代から。



本来はお盆にお迎えした精霊を再び冥府に返す精霊送りの意味を持ちます。地元の人々が昔から大事に続けてきた宗教行事です。先祖を思い、合掌をして亡くなった人を供養する気持ちで送り火をご覧ください。



### 「大」の謎を追う 六波羅蜜寺の萬燈会

萬燈会(8/8~10)の始まりは963年夏。本堂陣内で土器杯に灯心を「大」の字に入れ、その五つの端に点火したものを、百八つ献灯する。「大」は地、水、火、風、空の大自然を表した「五大」を意味し、自然への畏敬と祖先を敬う気持ちを象徴しているという。京都ではお精霊様の迎え火と送り火として親しまれており、京都の大文字の送り火の原形となったといわれます。最近パワースポットとしても注目され、「開運推命おみくじ」はよく当たるとか...

(アクセス: 京阪電車 京都清水五条駅より徒歩5分)

### ビューポイント

どの山も市内の各地から見えます。メスブ近くの京都御所や鴨川(出町柳)からは一番に灯火される東山の「大」が美しく見えます。

二条城前の京都国際ホテル屋上からは、ビル越しですが全山が見えるそうです!(要予約です)

### 消し炭は魔除け・厄除け

かつては燃え切った松割の消炭を粉末に砕き、病封じとして服用する習慣がありました。現在は家庭の魔除け・厄除けとして利用されており、銀閣寺周辺の旧家の軒先では、半紙に包んだ消炭が吊るされているのを見ることができます。

### 登れます! 右大文字

京都ではおなじみのハイキングコースです。火床のある頂上まで片道約1時間。銀閣寺正面を左に回っていくと登山口があります。さすがに山道で階段も多く、夏は汗びっしょりになりますが、山頂からは京都の町並みが一望できます。苦勞して登るかいあり!! 気合を入れて観光ルートに取り入れてみてはいかがでしょうか。(ハイパーはNG、荷物はリュックで)



### 「鴨川の納涼床」

古くは豊臣秀吉の時代から広まったといわれる鴨川の床(ゆか)は夏の京都の風物詩。5~9月のみ、五条通り~二条通りまで左岸の飲食店が鴨川の河原に高床を作り、風情あるお席を用意してくれます。昔は高級なお席でしたが、現在は居酒屋、カフェ、イタリアン、中華料理と様々なジャンルのお店があり、リーズナブルに楽しむことができます。川の風に吹かれて、一味違う京都の夜はいかがでしょう?

(席数に限りがあるので、予約されることをおすすめします)

### 京都の夏はどうして「鱧(はも)料理」?

京都の夏に欠かせない食材「鱧」。京都では高級食材でありながら、夏にはスーパーに「鱧の湯引き」が並ぶほど身近な旬の味覚。鱧は「梅雨の水を飲んで育つ」と言われ、夏に産卵期を迎えることから、旨みがあるのにサッパリした味が特徴。「京都の鱧は山で捕れる」という言葉があります。瀬戸内海辺りから京へ運ぶ魚屋が、山崎の山を越える時うっかり荷物を落とし、鱧が散乱。拾い残りを近くの農民が見つけて拾うとまだ生きていたため、この言葉ができたといわれています。鮮度が命の魚、このずば抜けて強い生命力こそ、海から遠い京都の夏を彩る魚になった由縁です。